

## 入札説明書（電子入札対象案件）

東北農政局の山王海葛丸農業水利事業 山王海ダム小水力発電施設製作据付工事に係る入札公告（建設工事）に基づく入札等については、関係法令に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

- 1 公告日 令和7年6月19日
- 2 契約担当官等 支出負担行為担当官  
東北農政局長 菅家 秀人
- 3 担当部局 東北農政局総務部会計課事業経理調整係  
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎A棟  
電話 022-263-1111（内線4227）
- 4 工事内容等
  - (1) 工事名 山王海葛丸農業水利事業 山王海ダム小水力発電施設製作据付工事
  - (2) 工事場所 岩手県紫波郡紫波町土館地内
  - (3) 工事内容 別冊図面及び別冊仕様書等のとおり
  - (4) 工期 令和11年3月9日まで
  - (5) 本工事は、提出された技術資料に基づき、入札価格と入札価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式（標準A型）の適用工事である。  
また、品質確保のための体制その他の施工体制の確保状況を確認し、施工内容を確実に実現できるかどうかについて審査し、評価を行う施工体制確認型総合評価落札方式の試行工事である。
  - (6) 本工事は、品質・安全等の確保がされないおそれがある極端な低価格での調達を見込んでいないかなどを厳格に調査する特別重点調査の試行工事である。
  - (7) 本工事は、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）（以下「予決令」という。）第85条に基づく調査基準価格（以下「調査基準価格」という。）を下回った価格をもって契約する者に対して、予決令第86条に規定する調査（以下「低入札価格調査」という。）結果の公表及び監督体制の強化等により品質確保等の対策を実施する工事である。
  - (8) 本工事は、調査基準価格を下回った価格をもって契約する者に対して、施工確認段階等において監督職員が文書により受注者に改善を指示した場合、その回数に応じ以降1年間東北農政局管内の別の新規工事における総合評価落札方式の加算点等を減ずる試行工事である。
  - (9) 本工事は、契約締結後に施工方法等の提案を受け付ける契約後VE方式の対象工事である。
  - (10) 本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号）に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事である。
  - (11) 本工事は、入札説明書の交付、競争参加資格確認申請書（以下「申請書」という。）及び技術提案書を含む競争参加資格確認資料（以下「確認資料」という。）の提出、受領に係る確認及び入札について、原則として電子入札システムで行う対象工事である。ただし、電子入札システムによりがたい者であって、紙入札方式（持参又は郵送）の承諾に関する承諾願「別記様式9」を提出し承諾を得た者は、紙入札方式に代えることができる。
  - (12) 本工事は、「総価契約単価合意方式（包括的単価個別合意方式）」（以下「本方式」という。）の対象工事である。本工事では、契約変更等における協議の円滑化に資するため、契約締結後に、受発注者間の協議により総価契約の内訳としての単価等（共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等を含む）について合意するものとする。本方式の実施方式は、工事数量表の細別の単価に請負代金比率（落札金額を予定価格で除したもの）を乗じて得た各金額について合意する方式とする。

なお、本方式の実施手続は、「総価契約単価合意方式実施要領（包括的単価個別合意方式）」及び「総価契約単価合意方式実施要領の解説（包括的単価個別合意方式）」によるものとする。（農林水産省ホームページ：<https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/soukakeiyaku.html>参照）

- (13) 本工事の施工に当たり、1日未満で完了する作業量の作業が見込まれ、施工パッケージ型積算基準と乖離があった場合において、1日未満で完了する作業の積算の適用について監督職員と協議し、設計変更することができる。
- (14) 本工事は、東日本大震災の被災3県（岩手県、宮城県、福島県）で実施される工事であり、東日本大震災の復旧・復興事業等における積算方法による間接工事費等の補正を適用する工事である。  
（農林水産省ホームページ：<https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/index.html#daikibosaiga>参照）
- (15) 本工事の施工に当たり、「共通仮設費（率分）のうち営繕費（労働者送迎費、宿泊費、借上費）」及び「現場管理費のうち労務管理費（募集及び解散に要する費用、賃金以外の食事、通勤等に要する費用）」（以下「営繕費等実績変更対象経費」という。）については、工事实施に当たって積算額と実際費用に乖離が生じることが考えられる。契約締結後、受注者の責によらない地元調整等により施工計画に変更が生じ、土地改良事業等請負工事積算基準の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、営繕費等実績変更対象経費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更することができる。
- (16) 本工事の施工に当たり、「共通仮設費（率分）のうち運搬費（建設機械の運搬費）及び準備費（伐開・除根・除草費）」（以下「運搬費等実績変更対象経費」という。）については、工事实施に当たって積算額と実際の費用に乖離が生じた場合、契約締結後、運搬費等実績変更対象経費の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更することができる。
- (17) 本工事は、建設資材の調達に要する費用（購入費、輸送費）について、通常調達する地域内の需給状況から、工事を円滑に実施するために遠隔地から調達せざるを得ない場合も考えられることから、契約締結後、土地改良事業等請負工事積算基準の金額相当では適正な工事の実施が困難になった場合は、これら費用の支出実績を踏まえて最終精算変更時点で設計変更する試行工事である。
- (18) 本工事は、誰でも働きやすい現場環境（快適トイレ）の整備について、監督職員と協議し、変更契約においてその整備に必要な費用を計上する試行工事である。
- (19) 本工事は、月単位の週休2日に取り組むことを前提として、労務費、共通仮設費（率分）、現場管理費（率分）を補正した試行対象工事である。受注者は、契約後、週単位又は月単位の週休2日の取組について工事着手前に選択し、選択結果について発注者と協議した上、週休2日による施工を行わなければならない。なお、受注者の責によらない現場条件・気象条件等により週休2日の確保が難しいことが想定される場合には監督職員と協議するものとする。
- (20) 本工事は、週休2日制工事の促進における履行実績取組証明書の発行を行う工事である。
- (21) 本工事は、工期の前に建設資材や建設労働者などが確保できるよう余裕期間制度を活用する工事である。詳細は、特別仕様書に示すとおりである。
- (22) 本工事は、熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行工事の対象とし、日最高気温の状況に応じた現場管理費の補正を行う対象工事である。
- (23) 本工事は、ワーク・ライフ・バランス等推進企業を評価する試行工事である。
- (24) 本工事は、契約手続にかかる書類の授受を、原則として電子契約システムで行う対象工事である。

なお、電子契約システムによりがたい場合は、発注者の承諾を得て紙契約方式に代えるものとする。

## 5 競争参加資格

- (1) 次に掲げる条件を満たしている者であること。

- ① 予決令第70条の規定に該当しない者であること。  
なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ているものは、予決令第70条中、特別の理由がある場合に該当する。
- ② 予決令第71条の規定に該当しない者であること。
- ③ 東北農政局における令和7・8年度一般競争（指名競争）参加資格のうち「**電気工事**」に係る一般競争（指名競争）参加資格の認定を受けていること。  
ただし、会社更生法（平成14年法律第154号）に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法（平成11年法律第225号）に基づき再生手続開始の申立てがなされている者については、手続開始の決定後、東北農政局長が別に定める手続に基づいて一般競争（指名競争）参加資格の再認定を受けていること。
- ④ 会社更生法に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法に基づき再生手続開始の申立てがなされている者でないこと。ただし、上記③の再認定を受けた者を除く。
- ⑤ 次に掲げる施工実績を有すること。  
ア 平成22年4月1日以降に、元請けとして自ら製作・据付し、完成・引渡し完了した次の同種工事の施工実績。ただし、経常建設共同企業体にあつては、構成員のうち1社が同種工事の施工実績を有すること。共同企業体としての施工実績は、出資比率が20%以上のものについて認める。  
なお、「自ら製作」とは、その設備の主要装置・機器について自ら設計・製作し、設備機能全体を保証することである。また、設備全般のシステム設計を自社で行う一方、設備を構成する一部の装置・機器について仕様を示して他社に外注する場合（委託生産、OEM生産）も、自社製品として扱う。  
イ 「同種工事」とは、「**電気工事（水力発電設備の製作・据付）**」とする。施設規模については問わない。  
ウ 当該実績が各地方農政局（沖縄総合事務局を含む。）の発注した工事である場合にあつては、工事成績評定表の評定点が65点未満のものを除く。
- ⑥ 次に掲げる基準を満たす主任技術者又は監理技術者を当該工事に配置できること。なお、専任の要否は建設業法及び建設業法施行令による。ただし、契約締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間で、詳細は特別仕様書による。）及び工事完成後、検査が終了し事務手続き、後片付け等のみが残っている期間においては、工事現場への専任を要しない。  
また、本工事の工場製作のみが行われている期間は、主任技術者又は監理技術者の専任は要しないが、工場から現地へ工事の現場に移行する時点からは、主任技術者又は監理技術者を配置できるものでなければならない。  
なお、必ずしも一人の技術者である必要はなく、工場製作・現場据付時で別の技術者を配置しても差し支えない。  
加えて、本工事は余裕期間を設定しており、特別仕様書に示す余裕期間内で着手までの間は、技術者等（現場代理人を含む。）の配置は必要なく、着手日までに配置できること。  
ア 建設業法（昭和24年法律第100号）第7条第2号イ、ロ又はハのいずれかに該当する者であること。  
なお、建設業法に示す実務経験は「**電気工事**」とする。  
イ 監理技術者は、監理技術者資格者証（**電気工事業**）及び監理技術者講習修了証（監理技術者講習修了履歴）を有する者であること。  
ウ 上記⑤に掲げる同種工事の施工経験を有する者であること。経常建設共同企業体にあつては、一人の主任技術者又は監理技術者が上記⑤の同種工事の施工経験を有すること。  
また、当該経験が各地方農政局（沖縄総合事務局を含む。）が発注した工事である場合にあ

っては、評定点合計が65点未満のものを除く。

なお、工場製作における配置予定の技術者と据付工事における配置予定の技術者が異なるときは、工場製作における配置予定技術者は工場製作の施工経験を、据付工事における配置予定技術者は据付工事の施工経験を有するものであること。

エ 主任技術者又は監理技術者にあつては直接的、かつ、恒常的な雇用関係が必要であるので、その旨を確認することができる資料を求めることがあり、その確認がなされない場合は入札に参加できないことがある。

なお、「恒常的な雇用関係」とは、入札の締切日以前に3ヶ月以上の雇用関係があることをいう。

- ⑦ 技術提案が適正であること。
- ⑧ 申請書の提出期限の日から開札時までの期間に、東北農政局長から東北農政局工事請負契約指名停止等措置要領（平成15年9月1日付け15北総528号（経）東北農政局長通知）に基づく指名停止を受けていないこと。
- ⑨ 当該工事に係る設計業務等の受注者又は当該受注者と資本若しくは人事面において関連がある者でないこと。
- ⑩ 同一入札に参加しようとする複数の者の関係において、資本関係又は人的関係がないこと。
- ⑪ 農林水産省発注工事等からの暴力団排除の推進について（平成19年12月7日付け19経第1314号農林水産省大臣官房経理課長通知）に基づき、警察当局から部局長に対し、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、農林水産省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。
- ⑫ 次に掲げる届出をしていない建設業者（当該届出の義務がない者を除く。）でないこと。
  - ア 健康保険法（大正11年法律第70号）第48条の規定による届出の義務
  - イ 厚生年金保険法（昭和29年法律第115号）第27条の規定による届出の義務
  - ウ 雇用保険法（昭和49年法律第116号）第7条の規定による届出の義務
- ⑬ 工事完成、引渡し後においても設備・製品の保守管理（通常時及び緊急時）の対応が速やかにできる体制が会社組織（協力会社を含む。）として整備されていること。

## 6 設計業務等の受注者等

(1) 上記5の(1)⑨の「当該工事に係る設計業務等の受注者」とは、次に掲げる者である。

N T C コンサルタンツ株式会社

(2) 上記5の(1)⑨の「当該受注者と資本若しくは人事面において関連がある者」とは、次の①又は②に該当する者である。

- ① 当該受注者の発行済株式総数の100分の50を超える株式を有し、又はその出資の総額の100分の50を超える出資をしている建設業者
- ② 建設業者の代表権を有する役員が、当該受注者の代表権を有する役員を兼ねている場合における当該建設業者

## 7 一定の資本関係又は人的関係のある複数の者の同一入札に関する事項

入札に参加しようとする者の間に以下の基準のいずれかに該当する関係がないこと。

なお、以下の関係がある場合に、辞退する者を決めることを目的に当事者間で連絡をとることは、東北農政局競争契約入札心得第4条の3第2項の規定に抵触するものではないことに留意すること。

(1) 資本関係

以下のいずれかに該当する二者の場合

- ① 子会社等（会社法（平成18年法律第86号）第2条第3号の2に規定する子会社等をいう。以下同じ。）と親会社等（同条第4号の2に規定する親会社等をいう。以下同じ。）の関係にある場

合

② 親会社等と同じくする子会社等同士の関係にある場合

(2) 人的関係

以下のいずれかに該当する二者の場合

① 一方の会社等（会社法施行規則（平成18年法務省令第12号）第2条第3項第2号に規定する会社等をいう。以下同じ。）の役員（同条同項第3号に規定する役員のうち、次に掲げる者をいう。以下同じ。）が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合。ただし、会社等の一方が民事再生法（平成11年法律第225号）第2条第4号に規定する再生手続が存続中の会社等又は更生会社（会社更生法（平成14年法律第154号）第2条第7項に規定する更生会社をいう。）である場合を除く。

ア 株式会社の取締役。ただし、次に掲げる者を除く。

a 会社法第2条第11号の2に規定する監査等委員会設置会社における監査等委員である取締役

b 会社法第2条第12号に規定する指名委員会等設置会社における取締役

c 会社法第2条第15号に規定する社外取締役

d 会社法第348条第1項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を執行しないこととされている取締役

イ 会社法第402条に規定する指名委員会等設置会社の執行役

ウ 会社法第575条第1項に規定する持分会社（合名会社、合資会社又は合同会社をいう。）の社員（同法第590条第1項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を執行しないこととされている社員を除く。）

エ 組合の理事

オ その他業務を執行する者であって、上記アからエまでに掲げる者に準ずる者

② 一方の会社等の役員が、他方の会社等の民事再生法第64条第2項又は会社更生法第67条第1項の規定により選任された管財人（以下「管財人」という。）を現に兼ねている場合

③ 一方の会社等の管財人が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

(3) その他の入札の適正さが阻害されると認められる場合

組合とその構成員が同一の入札に参加している場合その他上記（1）又は（2）と同一視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合

8 総合評価に関する事項

(1) 評価項目及び評価基準

評価項目は次に示す事項とし、評価項目の詳細及び評価基準は別紙-1のとおりである。

① 施工体制（品質確保の実効性、施工体制確保の確実性）

② 企業評価

③ 技術提案

(2) 総合評価の方法

① 「標準点」を100点とし、「施工体制評価点」の最高点を30点、「加算点」の最高点を50点とする。

② 「標準点」は、上記5の競争参加資格に掲げる条件を満たしている者に100点を与える。

③ 「施工体制評価点」の算出方法は、技術資料の内容に応じ、上記（1）の①の評価を行い、「施工体制評価点」を与える。

④ 「加算点」の算出方法は、上記（1）の②及び③について評価した結果、得られた「評価点の合計値」に、加算点の最高点50点を評価点の最高点（満点）55.5点で除した値を乗じて求められる点数を「加算点」として与える。

（加算点＝評価点の合計値×（加算点の最高点50点／評価点の最高点（満点）55.5点））

⑤ 価格と価格以外の要素を総合的に評価する施工体制確認型総合評価落札方式（標準A型）は、入札参加者の「標準点」、「施工体制評価点」及び「加算点」の合計を入札参加者の入札価格で除して得た数値（（標準点＋施工体制評価点＋加算点）／入札価格。以下「評価値」という。）により行う。

⑥ 「施工体制評価点」の評価結果が低い者に対しては、「加算点」についても減じる措置を行う。  
（修正後の加算点＝加算点×（施工体制評価点／30点））

(3) 評価内容の担保

実際の施工に関しては、技術提案に記載された内容により行うものとし、工事完了後に履行状況について検査を行う。受注者の責により記載内容が満足できない場合は、次の取扱いを行う。

なお、受注者の責によらない場合とは、災害又はその他特別な事情がある場合のことをいい、発注者と受注者の協議により決定する。

① 工事成績評定点の減点措置

技術提案を満足できない場合は、工事成績評定点を未実施の評価項目ごとに3点を減ずることとする。

② 違約金の請求措置

完成時評定において、受注者が入札時に提示した技術提案による施工が、受注者の責により履行されなかった場合は、評価項目の加算点により、次の式により違約金を算定し、受注者に請求するものとする。

違約金＝（D－C）×減点1点あたりの単位

※ 減点1点あたりの単位＝A／（B＋D）

A：当初入札金額

B：標準点＝100点

C：評価項目完成時評定による加算点＋施工体制評価点

D：当初入札時に提示した技術提案による加算点＋施工体制評価点

9 申請書及び確認資料の提出

(1) 本競争の参加希望者は、上記5に掲げる競争参加資格を有することを証明するため、次に従い、申請書及び確認資料を提出し、支出負担行為担当官から競争参加資格の有無について確認を受けなければならない。

なお、期限までに申請書及び確認資料を提出しない者並びに競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができない。

① 提出期間

ア 申請書は、別表1①に示す日時

イ 確認資料は、別表1⑤に示す日時。

なお、確認資料と合わせて入札書及び工事費内訳書を提出すること。

② 提出方法

申請書及び確認資料の提出は、電子入札システムにより行うこと。ただし、発注者の承諾を得て、紙入札方式による場合は、提出場所へ持参又は郵送（書留郵便に限る。提出期限内必着）するものとする。

③ 提出場所

上記3に同じ。

(2) 申請書は、別記様式1－1により作成すること。

(3) 確認資料は、次に従い作成し、別記様式1－2と共に提出すること。

上記5の(1)⑤の同種工事の施工実績及び上記5の(1)⑥の配置予定技術者の施工経験の確認は、我が国における同種工事の施工実績をもって行う。

なお、下記①の同種工事の施工実績及び下記②の配置予定技術者の同種工事の施工経験については、平成22年4月1日以降に、元請けとして完成・引渡し完了しているものに限り記載すること。

### ① 施工実績

ア 上記5の(1)⑤に掲げる資格があることを判断できる同種工事の施工実績(1件でよい)を**別記様式2**に記載すること。

イ 上記アの同種工事の施工実績として記載した工事に係る契約書の写し及び工事内容が確認できる資料を提出すること。ただし、当該工事が、一般財団法人日本建設情報総合センターの「工事实績情報システム」(以下「CORINS」という。)に登録されている場合で、工事内容まで確認できる場合は、その写しを添付することにより、契約書の写し及び工事内容の確認できる資料を提出する必要はない。

### ② 配置予定技術者

上記5の(1)⑥に掲げる資格があることを判断できる配置予定技術者の資格、同種工事の施工経験(1件でよい)及び申請時における他の工事の従事状況等を**別記様式3**に記載すること。ただし、当該工事の工場製作における配置予定技術者と据付工事における配置予定技術者が異なる場合は、それぞれの配置予定技術者を**別記様式3**に記載すること。

なお、配置予定技術者の同種工事の施工経験において、工事期間と従事期間が相違する場合には、工事期間内に当該工事に必要な施工経験を確認できる資料(工事実施工程と工事量及び配置予定技術者の従事期間に関する資料)を**別記様式3**のほか提出すること。また、一般財団法人日本建設情報総合センターの「工事实績情報システム」(以下「CORINS」という。)等に従事期間が登録されていない場合は、**別紙-4**の「従事証明書」を代表者名で提出すること。その従事期間における工事量が当該工事に必要な施工経験を満たさない場合又は全工期に従事していない配置予定技術者が工事の経験が分かる資料を提出しない場合は、施工経験として認めない。

ア 確認資料提出時に配置予定技術者が特定できない場合は、複数の候補者を記載することができるが、その場合は、資格等の評価が低い者で審査する。

イ 配置予定の技術者は、同一の技術者を重複して複数工事の配置予定とすることは差し支えないものとする。ただし、他の工事を落札したことにより配置予定の技術者を配置することができなくなったときは、直ちに競争参加資格の確認の申請の取下げ又は入札の辞退を行わなければならない。

ウ これらの行為を行わず入札した者については、指名停止等措置要領に基づく指名停止を行う。

エ 配置予定技術者の同種工事の施工経験は、同種工事に該当する工種の施工期間の3分の2又は8箇月以上従事した工事とする。

なお、工場製作における配置予定技術者と据付工事における配置予定技術者が異なる場合は、それぞれの施工期間の3分の2又は8箇月以上従事した工事とする。

オ 実際の施工に当たって技術資料に記載した配置予定技術者を変更できるのは、死亡、傷病、出産、育児、介護または退職等の真にやむを得ない場合のほか、受注者の責によらない場合に限る。

カ 上記5の(1)⑥アの実務経験を持って申請する場合は、**別記様式12**を提出すること。

なお、配置予定技術者が、「電気工事業」に係る監理技術者資格者証を保有している場合は、監理技術者資格者証(両面)の写しを提出することで、別記様式12の提出を省略することができる。

### ③ 契約書の写し

上記①の同種工事の施工実績及び上記②の配置予定技術者の同種工事の施工経験として記載した工事に係る契約書の写し及び工事内容が確認できる資料を提出すること。ただし、当該工事が、CORINSに登録されている場合で、工事内容まで確認できる場合は、その写しを添付することによ

り、契約書の写し及び工事内容の確認できる資料を提出する必要はない。

④ 監理技術者資格者証等の写し

上記②の配置予定技術者の従事役職を監理技術者とする場合は、監理技術者資格者証の写し(両面)を提出すること。資料等の提出期限の日において、監理技術者資格者証又は監理技術者講習修了履歴の有効期限が過ぎている場合は、本工事の契約までに確実に再取得が可能な資料等を提出した場合を除き配置予定技術者として認めない。

⑤ 資本関係又は人的関係に関する申告

上記5の(1)⑩の同一入札に参加しようとする複数の者の関係において、資本関係又は人的関係がないことを確認するため、上記7に掲げる資本関係又は人的関係にある者に関する情報について、**別記様式4**に記載し申告すること。

なお、**別記様式4**により申告した関係者が本工事の入札に参加した場合には、当該工事への参加資格をなしとし、入札書を無効とする。また、このことにかかる異議申立ては、一切受け付けない。

(4) 技術提案は、**別記様式5-1及び5-2**に記載のうえ、確認資料と合わせて提出すること。

(5) 企業評価に係る確認資料は、**別紙-1**により作成するものとし、確認資料と合わせて提出すること。

(6) 上記5の(1)⑬の保守管理体制に係る確認資料は、**別記様式13**に記載のうえ、**別記様式1-2**と合わせて提出すること。

(7) その他

① 申請書及び確認資料の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とする。

② 支出負担行為担当官は、提出された申請書及び確認資料を競争参加資格の確認以外に提出者に無断で使用しない。

③ 提出された申請書及び確認資料は、返却しない。

④ 提出期限以降における申請書及び確認資料の差し替え及び再提出は、特別な理由がない限り認めない。

⑤ 申請書及び確認資料に関する問合せ先は、上記3に同じ。

⑥ 電子入札システムにより申請書及び確認資料を提出する場合は、次による。

ア 申請書及び確認資料は、次表のいずれかのファイル形式にて作成することとし、ファイルの総容量を10MB以内とすること。ただし、**別記様式5-1、5-2**のファイル形式は「Microsoft Word」とする。

また、ファイル数はなるべく3つ以内として1つのフォルダにまとめ、Lzh形式等により圧縮して送信することを認める。

ファイル形式	・Microsoft Word ・Microsoft Excel ・PDF形式 ・RTF形式
ファイル圧縮形式	・Lzh形式、Lha形式又はzip形式(自己解凍方式は不可)

イ やむを得ず10MBを超える場合は、10MBの範囲内で電送可能な資料は全て送信するものとし、その際、次表の資料(**別記様式1-2～5-2**)については、必ず電子入札システムにより電送すること。

なお、不足分については、電送済みの資料と併せ、提出期間の最終日午後3時(必着)までに持参又は郵送(書留郵便に限る。提出期限内必着)すること。

また、参考資料が電送できなかった場合は、CD-Rも併せて提出すること。

様式	名称	提出形式
別記様式1-2	競争参加資格確認資料提出書	

別記様式1-3	競争参加資格確認資料の提出内容一覧表	
別記様式2	同種の工事の施工実績	
別記様式3	配置予定の技術者の状況	
別記様式4	資本関係又は人的関係に関する申告書	
別記様式5-1	技術提案書	Word
別記様式5-2	技術提案書	Word

ウ 詳細は、農林水産省電子入札運用基準標準例（建設工事及び測量・建設コンサルタント等業務）（東北農政局ホームページ：<https://www.maff.go.jp/tohoku/sinsei/nyusatu/densi.htm>）によるものとする。

- ⑦ 紙入札方式により申請書及び確認資料を提出する場合は、紙に印刷したものに併せて、**別記様式5-1**及び**別記様式5-2**をCD-Rに収めて提出場所に提出すること。
- ⑧ 提出資料について、既発注工事（令和7年度で契約担当官が同一に限る。）で提出した確認資料と同一となる場合は、**別記様式1-3**にその旨を記載することにより、同一となる確認資料の提出を省略することができるものとする。
- なお、既発注工事で提出した資料の内容と今回求める内容が異なる場合、又は既発注工事の名称に誤りがある場合は、確認資料の提出がなかったものとして取扱うものとする。
- ⑨ 申請書受付票の発行は、別表1②に示す日時に電子入札システムにより行うものとし、併せて追加資料の配布を行うものとする。

## 10 競争参加資格の確認等

### (1) 競争参加資格の確認

- ① 競争参加資格の確認は、確認資料の提出期限の日をもって行うものとし、その結果は、別表1⑥に示す期日までに通知する。ただし、競争参加資格の確認を行った日の翌日から開札の時までの期間に、競争参加資格があると認めた者が指名停止措置要領に基づく指名停止を受けた場合、競争参加資格の確認の通知を取り消し、競争参加資格がないと認めたことを通知する。
- なお、上記5の(1)⑧の指名停止については、申請書の提出期限の日から競争参加資格の確認を行う日までのすべての期間について確認するものとする。
- ② 上記5の(1)③の認定を受けていない者又は会社更生法に基づき更生手続開始の申立てがなされている者であっても、次に従い申請書及び確認資料を提出することができる。この場合において、上記5の(1)①、②及び⑤から⑬までに掲げる事項を満たしているときは、開札時において上記5の(1)③、④に掲げる事項を満たしていることを条件として競争参加資格があることを確認するものとする。当該確認を受けた者が競争に参加するためには、開札時において上記5の(1)③、④に掲げる事項を満たしていなければならない。
- なお、期限までに申請書及び確認資料を提出しない者並びに競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができない。
- ③ 上記5の(1)⑤の施工実績及び上記5の(1)⑥の配置予定技術者の施工経験は、確認資料の提出期限の日までに完成検査を了しているものを認めるものとし、確認資料の提出期限の日までに引き渡しが無了である場合は、開札までに引き渡しが無了していることを条件として競争参加資格があることを確認するものとする。当該確認を受けた者が競争に参加するためには、開札の時までに引き渡しが無了したことを確認できる資料を提出しなければならない。

### (2) 競争参加資格がないと認められた者に対する理由の説明

- ① 競争参加資格がないと認められた者は、支出負担行為担当官に対して競争参加資格がないと認められた理由について、次に従い、書面（様式は自由）により説明を求めることができる。
- ア 提出期限 別表1⑨に示す期日
- イ 提出方法 書面は持参することにより提出するものとし、郵送等又はファクシミリによるも

のは受け付けない。

ウ 提出場所 上記3に同じ。

② 支出負担行為担当官は、説明を求められたときは、別表1⑩に示す期日までに、説明を求めた者に対し書面により回答する。

(3) 再苦情申立て

① 上記(2)の②の回答において、競争参加資格がないと認めた理由に不服がある者は、上記(2)の②の回答書を受け取った日から7日(行政機関の休日を除く。)以内に、書面により支出負担行為担当官に対して、再苦情の申立てを行うことができる。再苦情申立てについては入札監視委員会が審議を行う。

② 再苦情申立ての受付窓口及び受付時間

ア 受付窓口 上記3に同じ。

イ 受付時間 午前9時から午後5時まで(行政機関の休日を除く。)

③ 再苦情申立てに関する手続等を示した書類等の入手先  
上記3に同じ。

## 11 入札説明書に対する質問

(1) この入札説明書に対する質問がある場合は、次に従い提出すること。

① 提出期間 別表1③に示す日時

② 提出方法 **別記様式14(ファイル形式「Microsoft Word」)**に記載のうえ、電子メールにより送信すること。また、**電子メール送信後はその旨を電話にて連絡し、必ず着信を確認すること。**

③ 提出先 東北農政局農村振興部設計課技術審査係

Email: shitsumon-setsumei@maff.go.jp

電話 022-263-1111(内線4452)

(2) 上記(1)の質問に対する回答書は、質問を受理した日の翌日から起算して7日以内(行政機関の休日を除く。)に電子入札システムにて回答する。

なお、提出期限の日に受理した質問に対する回答書は、次の期間に回答する。

期 間 別表1④に示す日時

## 12 総合評価落札方式における技術提案の採否に関する通知

(1) 技術提案の採否に関する通知

入札参加者から提出された技術提案の各項目について、採用となる項目及び採用とならない項目の通知(以下「技術提案の採否に関する通知」という。)については、競争参加資格の確認結果に併せて通知する。

(2) 技術提案の採否に関する問合せ

① 入札参加者は、上記(1)の技術提案の採否に関する通知について、次に従い、問合せをすることができる。

ア 問合せ窓口 東北農政局農村振興部設計課技術審査官

Email: shitsumon-setsumei@maff.go.jp

電話 022-263-1111(内線4452、技術審査係)

イ 問合せ期限 別表1⑦に示す期日

ウ 問合せ方法 質問の内容を入札説明書に添付する**別紙-5(問合せ様式)**に記し、上記アの窓口にて電子メールにより提出するものとする。

なお、上記宛てに電子メールを送信後は、その旨を電話にて連絡し、必ず着信を確認すること。

② 技術審査官は、上記①の問合せがあった場合には、別表1⑧に示す期日までに当該問合せをした者に対し、電子メールにより返信する。

(3) 落札者決定後の面談等による説明

入札参加者は、上記(2)の問合せに加えて、落札者の決定の通知後、次に従い、面談等による説明を求めることができる。なお、上記(2)の問合せをしなかった入札参加者であっても面談等による説明を求めることができる。

① 面談窓口 上記(2)の①アに同じ。

② 申込み期限 落札者の決定の通知日の翌日から起算して7日以内（行政機関の休日を除く。）

③ 申込み方法 別紙-5に面談を希望する日時を記載し、電子メールにより提出するものとする。

なお、電子メールを送信後は、その旨を電話にて連絡し、必ず着信を確認すること。

13 入札保証金及び契約保証金

(1) 入札保証金 免除する。

(2) 契約保証金 納付（保管金の取扱店 日本銀行仙台支店）。ただし、利付国債の提供（保管有価証券の取扱店 日本銀行仙台支店）又は金融機関若しくは保証事業会社（公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証会社をいう。）の保証（取扱官庁 東北農政局）をもって契約保証金の納付に代えることができる。また、公共工事履行保証証券による保証を付し又は履行保証保険契約の締結を行った場合は、契約保証金の納付を免除する。

低入札価格調査を受けた者に係る契約保証金の額は請負代金額の10分の3以上とする。

14 入札手続等

(1) 入札は、電子入札システムを用いて行うこと。ただし、紙入札方式の承諾を得た場合は、入札書を持参又は郵送（書留郵便に限る。）すること。

(2) 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積った契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

(3) 入札執行回数は、原則として2回を限度とする。

15 入札書の受領期限等

(1) 初回の入札

① 電子入札システムによる場合

ア 入札の締切り 別表1⑤に示す期日

イ その他 システム端末の不具合や通信障害等の不測の事態を考慮し、提出期限に余裕をもって入札金額の送信を行うこと。

② 紙入札方式により持参する場合

ア 入札の締切り 別表1⑤に示す期日

イ 提出先 上記3に同じ。

ウ その他 申請書受付票の写しを持参すること。

③ 紙入札方式により郵送する場合

ア 入札の締切り 別表1⑤に示す期日

イ 送付先 上記3に同じ。

ウ その他 申請書受付票の写しを表封筒と入札書を入れた中封筒の間に入れて郵送すること。

(2) 再度の入札

初回の入札において、予定価格の制限に達した価格の入札がない場合には、直ちに再度の入札を行う。

なお、郵送による入札がある場合には、別途連絡する。

16 工事費内訳書の提出

(1) 工事費内訳書の提出方法

① 電子入札システムによる場合

第1回の入札に際し、第1回の入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書（別記様式7）を電子入札システムにより提出を求める。確認の後、さらに工事費内訳書に対する明細書（別記様式8）の提出を求める場合があるため、速やかに提出できるように準備すること。

② 紙入札方式により持参する場合

第1回の入札に際し、第1回の入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書（別記様式7）の提出を求める。確認の後、さらに工事費内訳書に対する明細書（別記様式8）の提出を求める場合があるため、速やかに提出できるように準備すること。

③ 紙入札方式により郵送する場合

第1回の入札に際し、第1回の入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書（別記様式7）及び工事費内訳書に対する明細書（別記様式8）を表封筒と入札書を入れた中封筒の間に入れて郵送すること。

(2) その他

① 工事費内訳書は、価格以外の要素として性能等が提示された入札書の参考図書として提出を求めるものであり、開札時までに入札書に記載される入札金額に対応した工事費内訳書が提出されないとき又は提出された工事費内訳書に不備があるときは、東北農政局競争契約入札心得第7条に該当するものとして入札を無効とする。

なお、工事費内訳書に不備があるときは、別表各号に掲げるものに該当すると認められる場合とする。

② 工事費内訳書は、返却しない。

③ 工事費内訳書は、参考図書として提出を求めるものであり、入札及び契約上の権利義務を生ずるものではない。

④ 提出された工事費内訳書について、説明を求めることがある。

<別表>

1 未提出であると認められる場合（未提出であると同視できる場合を含む）	(1)	工事費内訳書の全部又は一部が提出されていない場合
	(2)	工事費内訳書とは無関係な書類である場合
	(3)	他の工事の工事費内訳書である場合
	(4)	白紙である場合
	(5)	工事費内訳書が特定できない場合
	(6)	他の入札参加者の様式を入手し、使用している場合
2 記載すべき事項が欠けている場合	(1)	内訳の記載が全くない場合
	(2)	入札説明書又は指名通知書に指示された項目を満たしていない場合
3 添付すべきではない書類が添付されていた場合	(1)	他の工事の工事費内訳書が添付されていた場合
4 書類に記載すべき事項に誤りがある場合	(1)	発注者名に誤りがある場合
	(2)	発注案件名に誤りがある場合

	(3)	提出業者名に誤りがある場合
	(4)	工事費内訳書の合計金額が入札金額と大幅に異なる場合
5 その他未提出又は不備がある場合		

## 17 開札

### (1) 開札の日時

開札は、次に掲げる日時及び場所において行う。ただし、上記10の(1)により、競争参加資格がないと認められた者から、説明を求められたときは、入札及び開札を延期する。

#### ① 初回入札の開札

ア 日時 別表1⑩に示す日時

イ 場所 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎A棟  
東北農政局第1入札室

#### ② 再度入札の開札

上記15の(2)の場合は、日時及び場所の詳細を別途連絡する。

### (2) 開札時の立ち会い

入札参加者が電子入札システムにより入札した場合は、開札時の立会いは不要とするが、承諾を得て紙による入札を行う者は、開札時に立ち会うこと。

なお、紙による入札参加者が1回目の開札に立ち会わない場合でも、当該紙による入札参加者の入札は有効として取り扱われるが、再度入札を行うこととなった場合には、支出負担行為担当官からの連絡に対して再度入札に参加する意思の有無を直ちに明らかにすること。入札者又はその代理人が開札に立ち会わない場合は、入札事務に関係のない職員を立ち会わせて開札を行う。

## 18 入札の無効

本公告及び入札説明書において示した競争参加資格のない者のした入札、申請書又は確認資料に虚偽の記載をした者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とし、無効の入札を行った者を落札者としていた場合には落札決定を取り消す。

なお、支出負担行為担当官により競争参加資格のある旨を確認された者であっても、開札時点において指名停止等措置要領に基づく指名停止を受けている者、その他開札時点において上記5に掲げる資格のない者のした入札は、無効とする。

## 19 施工体制確認のためのヒアリングの実施及び追加資料の提出

### (1) ヒアリング

施工体制(品質確保の実効性、施工体制確保の確実性)について、どのように施工体制を構築し、それが施工内容の実現確実性の向上につながるかを審査するため、原則として、予定価格の制限の範囲内の価格で申込みをした全ての入札参加者に対して、開札後速やかにヒアリングを実施する。

なお、調査基準価格以上の有効な価格で申し込みをした入札参加者に対しては、ヒアリングに換え「施工体制確認票」の提出を求めることがある。調査基準価格は、別紙-2による。

#### ① ヒアリングに関する連絡

開札後、別表1⑫に示す期日までに入札参加者あてに**電子入札システム**により連絡する。なお、予定価格を超過した入札参加者には連絡を行わない。

#### ② ヒアリング日時 別表1⑬に示す日時

施工体制確認票による場合は、**電子入札システム**により送付するので、必要な事項を記入し、別表1⑭に示す期日までに提出すること。

#### ③ ヒアリング場所 対象者あて別途連絡する。

#### ④ 追加資料の提出

ア 入札参加者のうち、その申込みに係る価格が調査基準価格に満たない者に対しては、ヒアリングのための追加資料（追加資料様式1～11）の提出を求める。追加資料様式は、別紙－2による。ただし、様式11はコスト縮減を申し出る者のみ提出するものとする。

イ 追加資料を提出すべき旨の連絡は、上記①の連絡の際に併せて対象者あて連絡する。

ウ 追加資料の提出期限は、別表1⑮に示す期日までとする。

なお、開札後速やかに追加資料の提出に対する意向の確認を求める場合があり、この際に追加資料の提出の意向のない者については、開札後、追加資料の提出を行わない旨を、別表1⑯に示す期日までに書面にて提出するものとする。詳細は上記①の際に連絡する。

追加資料の提出を行わない旨の提出があった者については、入札を無効として取り扱うものとする。

エ 追加資料の各様式に記載した内容を立証するため、追加資料と合わせて入札者が必要と認める添付書類を提出することができる。

オ いったん提出された追加資料及び添付書類の修正及び再提出は認めない。

#### ⑤ その他

ア 入札参加者別のヒアリングは原則1回とし、日時及び場所の詳細については別途連絡する。

イ ヒアリングの対応者は、工事費内訳書及び追加資料の内容を説明できる者とする。

なお、上記④のアに該当する者については、ヒアリングの際、説明者及び配置予定技術者を含む最大3名までを出席させるとともに、工事費内訳書及び追加資料の記載内容の確認を行うため、それぞれの根拠となる資料を持参すること。

ウ 上記④のアに該当する者以外の入札参加者についても、ヒアリングのための追加資料を求めることがある。

エ 追加資料の提出を行わない場合、ヒアリングに応じない場合又は追加資料の記載内容が適正でない（未記載、未定を含む。）場合は、入札を無効とすることがある。

オ 上記15の（2）の再度の入札を実施する場合は、ヒアリングの日程等を別途連絡する。

カ 施工体制に関する審査方法は、別紙－2による。

また、施工体制の評価結果に応じて、加算点を減ずる措置を行う。

#### （2） 重点的な調査

入札参加者の申込みに係る価格（VE提案の内容に基づく施工を行うことによりコスト縮減の達成が可能となること及びその縮減金額を上記（1）の④ア追加資料様式11の資料において明らかにしたときは、コスト縮減金額として認めた金額を当該入札参加者の申込みに係る価格に加えた価格）が、品質確保のための体制その他の体制が著しく確保されないおそれがある価格（予定価格の算定の前提とした各費用項目の金額に、直接工事費については90%、共通仮設費については80%、現場管理費については80%、一般管理費については30%、機器単体費については81%をそれぞれ乗じて得た金額の合計に100分の110を乗じて得た金額をいう。）に満たない場合は、審査を特に重点的に行う。

#### 20 落札者の決定方法

（1） 落札者は、上記8に定める「評価値」の最も高い者とする。

なお、落札の条件は、次のとおりとする。

- ① 入札価格が予定価格の制限の範囲内であること。
- ② 評価値が標準点を予定価格で除した数値（「基準評価値」）を下回らないこと。
- ③ 技術提案が発注者の予定している最低限の要求水準を下回らないこと。

また、評価値の最も高い者が2者以上ある場合は、当該者にくじを引かせて落札者を決定する。ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引

の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、入札価格が予定価格の制限の範囲内である者、かつ、適切な入札価格と考えられる入札をした者のうちから、「評価値」の最も高い者を落札者とすることがある。

- (2) 落札者となるべき者の入札価格が予決令第85条に基づく調査基準価格を下回る場合は、別紙-3による予決令第86条の調査を行うものとする。

#### 21 配置予定の技術者の確認

落札者決定後、CORINS等により配置予定の主任技術者又は監理技術者の専任制違反の事実が確認された場合、契約を結ばないことがある。

なお、病休・死亡・退職等極めて特別な場合でやむを得ないとして承認された場合のほかは、配置予定の主任技術者又は監理技術者の変更は認められない。

また、落札決定後、落札者となった者は、契約締結までに、配置予定の主任技術者又は監理技術者が営業所の専任技術者と重複状況を確認するため、建設業法及び建設業法施行令に基づく書面を提出すること。

#### 22 契約書作成の要否

工事請負契約書（例）により、工事請負契約書を作成するものとする。

#### 23 当該工事に直接関連する他の工事の請負契約を当該工事の請負契約の相手方との随意契約により締結する予定の有無

無し。

#### 24 支払条件

(1) 本工事は、補正予算が措置されるなど追加で予算の執行が可能となった場合に各年度の支払限度額を変更し、前倒して既済部分払等の支払いを可能とする「事業加速円滑化国債」を採用する。

(2) 前金払は、請負代金額（各会計年度出来高予定額）の40%以内とする。ただし、予決令第86条に規定する調査を受けた者との契約に係る前金払の金額は、請負代金額の10分の2以内とする。

#### 25 談合等不正行為があった場合の違約金等

(1) 受注者（共同企業体にあつては、その構成員）が、次に掲げる場合のいずれかに該当したときは、受注者は、発注者の請求に基づき、請負代金額（この契約締結後、請負代金額の変更があつた場合には、変更後の請負代金額）の10分の1に相当する額を違約金とし発注者の指定する期間内に支払わなければならない。

① この契約に関し、受注者が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第3条の規定に違反し、又は受注者が構成事業者である事業者団体（以下「受注者等」という。）が独占禁止法第8条第1号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が受注者に対し、独占禁止法第7条の2第1項（独占禁止法第8条の3において準用する場合を含む。）の規定に基づく課徴金の納付命令（以下「納付命令」という。）を行い、当該納付命令が確定したとき（確定した当該納付命令が独占禁止法第63条第2項の規定により取り消された場合を含む。）。

② 納付命令又は独占禁止法第7条若しくは第8条の2の規定に基づく排除措置命令（これらの命令が受注者等に対して行われたときは、受注者等に対する命令で確定したものをいい、受注者等に対して行われていないときは、各名宛人に対する命令全てが確定した場合における当該命令をいう。次号において「納付命令又は排除措置命令」という。）において、この契約に関し、独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為の実行としての事業活動があつたとされた

とき。

- ③ 納付命令又は排除措置命令により、受注者等に独占禁止法第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為があったとされた期間及び当該違反する行為の対象となった取引分野が示された場合において、この契約が、当該期間（これらの命令に係る事件について、公正取引委員会が受注者に対し納付命令を行い、これが確定したときは、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反する行為の実行期間を除く。）に入札（見積書の提出を含む。）が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき。
- ④ この契約に関し、受注者（法人にあっては、その役員又は使用人を含む。）の刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は独占禁止法第89条第1項若しくは第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき。

- (2) 受注者が上記（1）の違約金を発注者の指定する期間内に支払わないときは、受注者は、当該期間を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年3パーセントの割合で計算した額の遅延利息を発注者に支払わなければならない。

## 26 契約締結後の技術提案

- (1) 契約締結後、受注者は、設計図書に定める工事目的物の機能、性能等を低下させることなく請負代金を低減することを可能とする工事材料、施工方法等に係る設計図書の変更について、発注者に提案（以下「契約後VE提案」という。）できる。提案が適正と認められた場合には、設計図書を変更し、必要があると認められる場合には請負代金の変更を行うものとする。詳細については、特別仕様書等による。
- (2) 契約後VE提案の内容については、その後の工事において、その内容が一般的に使用されている状態となった場合は、無償で使用できるものとする。ただし、工業所有権等の排他的権利を有する提案については、この限りでない。
- (3) 発注者が契約後VE提案を適正と認め、設計図書の変更を行った場合においても、契約後VE提案を行った建設業者の責任が否定されるものではない。
- (4) 総合評価落札方式の技術提案事項については、契約後VE提案の対象としない。

## 27 電子入札システム

- (1) 電子入札システムによる手続開始後に、紙入札方式への途中変更は原則として行わないものとするが、入札参加者側にやむを得ない事情が生じた場合には、**別記様式10**にその理由を記載し、承諾を得て紙入札方式に代えることができる。
- (2) 電子入札システムに障害等やむを得ない事情が生じた場合には、紙入札方式に代える場合がある。
- (3) 電子入札システムに係る運用については、農林水産省電子入札運用基準標準例（建設工事及び測量・建設コンサルタント等業務）によるものとする。  
(東北農政局ホームページ：<https://www.maff.go.jp/tohoku/sinsei/nyusatu/densi.html> )
- (4) 電子入札システムについての問合せ先  
農林水産省 電子入札ヘルプデスク  
TEL:048-254-6031  
質問のメールを送信する際には、会社名（機関名）、部署名、役職、氏名、連絡先をご記入下さい。  
Email: help@maff-ebic.go.jp

## 28 関連情報を入手するための照会窓口

上記3に同じ。

## 29 その他

- (1) 契約の手續において使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨による。
- (2) 入札参加者は、東北農政局競争契約入札心得及び工事請負契約書（例）を熟読し、東北農政局競争契約入札心得を遵守すること。
- (3) 申請書又は確認資料に虚偽の記載をした場合においては、競争参加資格がないものとするとともに、指名停止等措置要領に基づく指名停止を行うことがある。
- (4) 落札者は、別記様式3に記載した配置予定技術者を当該工事の現場に配置すること。
- (5) 競争参加資格確認申請後に申請を取り下げる場合には、別記様式11にその理由を記載し、次の場所に持参又は郵送により提出すること。

また、競争参加資格確認申請書受付票の発行以降に入札を辞退する場合には、入札辞退届を提出するとともに、別途、別記様式11にその理由を記載し、次の場所に持参又は郵送により提出すること。

なお、競争参加資格確認申請書受付票の発行から競争参加資格確認結果の通知の前までに、入札辞退届を受理した場合には、競争参加資格確認結果を通知しない場合がある。

提出場所 東北農政局農村振興部設計課技術審査係

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎A棟

電話 022-263-1111（内線4452）

- (6) 別冊図面及び別冊仕様書等
  - ① 上記4の(3)「別冊図面及び別冊仕様書等」とは、次の図書とする。
    - ア 特別仕様書
    - イ 現場説明書
    - ウ 図面
    - エ 東北農政局競争契約入札心得
    - オ 工事請負契約書（例）
  - ② 上記①の図書のうち、「東北農政局競争契約入札心得」及び「工事請負契約書（例）」については、東北農政局ホームページ（<https://www.maff.go.jp/tohoku/sinsei/nyusatu/nyusatu.htm>）の【発注・入札情報、その他公表事項】よりダウンロードできる。
  - ③ 申請書受付票の発行日において「別冊図面及び別冊仕様書等」の再交付を行う場合がある。
- (7) 当該手續等についての問合せ先  
上記3に同じ。
- (8) 被災地域における被災農林漁家等の就労機会の確保について  
受注者は、工事の施工に当たっては、効率的な施工に配意しつつ、地震又は台風等被災地域における被災農林漁家等の就労希望者を優先的に雇用するよう努めるものとする。  
なお、被災農林漁家等の雇用においては、賃金等の支払いが適正、かつ、遅滞なく行われるよう配慮すること。
- (9) 下請契約からの社会保険等未加入建設業者の排除等
  - ① 受注者は、下請契約を締結する工事において、原則として、社会保険等未加入建設業者を下請負人としない。
  - ② 受注者と直接下請契約を締結する下請負人が社会保険等未加入建設業者であることが判明し、特別の事情があると認められなかった場合又は特別の事情があると認められたにもかかわらず、受注者が期間内に確認書類を提出しなかった場合には、受注者に対して次の措置を講じるものとする。
    - ア 指名停止等措置要領に基づく指名停止措置を行う。

- イ 工事成績評定等の減点を行う。
- ウ 受注者が当該社会保険等未加入建設業者と締結した下請契約の最終の請負代金額の10分の1に相当する額を発注者に支払わなければならない。
- ③ 上記②に掲げる下請負人以外の下請負人が社会保険等未加入建設業者であることが判明し、特別の事情があると認められなかった場合、かつ、受注者が期間内に確認書類を提出しなかった場合には、受注者に対して次の措置を講じるものとする。
- ア 指名停止等措置要領に基づく指名停止措置を行う。
- イ 工事成績評定等の減点を行う。
- ウ 当該社会保険等未加入建設業者がその注文者と締結した下請契約の最終の請負代金額の100分の5に相当する額を発注者に支払わなければならない。
- (10) 電子契約システムについて
- ① 本件は、契約手続にかかる書類の授受を原則として電子契約システムで行う対象工事である。
- ② 電子契約システムによりがたく、紙での契約手続を希望する者は、紙契約方式への変更承諾願(別記様式15)を提出しなければならない。
- ③ 電子契約システムに障害等やむを得ない事情が生じた場合には、紙契約方式に変更する場合がある。
- (11) 設計等業務報告書の閲覧について
- 技術提案書等の資料作成にあたり、本工事に関連する以下に示す設計等業務報告書について、閲覧(又は電子データの提供)可能とする。
- 閲覧を希望する場合は、②に示す担当部局等に事前に連絡すること。
- 閲覧方法についてはデータでの閲覧とし、CD-R等での貸与を希望する場合には、CD-R等(未開封のものに限る)を持参又は郵送すること。郵送による返信を希望する場合は返信用の封筒を同封することとし、書留郵便や宅配便など配達記録が残るもので行うものとする。なお、設計等業務報告書については、技術提案書等の作成以外の目的に用いてはならない。また、設計等業務報告書に対する質問は受け付けない。
- ① 閲覧期間 別表1⑱に示す日時
- ② 閲覧場所 〒028-3307 岩手県紫波郡紫波町桜町字才土地70-3  
東北農政局山王海葛丸農業水利事業所 工事課工事係  
電話 019-681-4560
- ③ 当該工事に係る設計業務等成果品
- ア 令和5年度 国営かんがい排水事業全体実施設計  
山王海葛丸地区山王海ダム小水力発電施設実施設計業務
- (12) 積算参考資料(工程表)の取扱いについて
- 本工事は、入札公告時に「積算参考資料(工程表)」として概略工程表を参考配布する試行工事である。
- なお、配布する「積算参考資料(工程表)」の内容についての質問は、原則として受け付けない。
- (13) 保険証券等の電磁的方法による提出
- 保証証書等(契約の保証に係る保証書若しくは証券又は前払金保証に係る保証証書をいう。以下同じ。)の提出又は寄託に代えて電磁的方法(電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法をいう。)であって、金融機関等が定め、契約担当官等の認める措置(以下「電磁的方法による提出」という。)を行う場合は、受注者は、保証証書等の提出又は寄託に代えて、電子証書等閲覧サービス(電子証書等を電気通信回線を通じて発注者等の閲覧に供するために、電子計算機を用いた情報処理により構築されたサービスであって、保険会社又は保証事業会社が指定するものをいう。)上にアップロードされた電子証書等を閲覧するために用いる契約情報(電子証書等の保険

契約番号又は保証契約番号をいう。)及び認証情報(電子証書等の保険契約番号又は保証契約番号に関連付けられたパスワードをいう。)を契約担当官等に提供し、契約担当官等が、当該契約情報及び認証情報を用いて当該電子証書等を閲覧することをもって代えることができる。保証契約番号及び認証情報は、可能な限り電子契約システムを介して提供すること。

なお、保険会社の発行する電子証書等については、暫定的な取扱いとして電子メールを用いて提出することができる。この場合の提出方法については、保険会社、契約担当官等に確認し、指定された手順を踏むこと。

(14) 入札する企業における人権尊重の確保について

入札者は、「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」(令和4年9月13日ビジネスと人権に関する行動計画の実施に係る関係府省庁施策推進・連絡会議決定)を踏まえて人権尊重に取り組むよう努めること。

その他の入札に関する事項については入札心得によるものとする。

別表1 入札手続に係る期間等

①	申請書の提出期間： 令和7年6月20日から令和7年7月3日までの午前9時から午後5時まで。ただし、最終日については、午前11時30分までとする。（注）
②	申請書受付票の発行：令和7年7月4日まで
③	入札説明書に対する質問の受領期間： 令和7年6月20日から令和7年7月14日までの午前9時30分から午後5時まで。ただし、最終日については、午前11時30分までとする。（注）
④	上記③に対する回答期間： 令和7年6月20日から令和7年7月18日までの午前9時30分から午後5時まで。ただし、開始日は午後3時からとする。（注）
⑤	確認資料及び入札書の提出期間： 令和7年7月23日から令和7年7月29日までの午前9時から午後5時まで。ただし、最終日については、午前11時30分までとする。（注）
⑥	競争参加資格の確認結果の通知：令和7年9月4日まで
⑦	技術提案の採否等の通知に関する問合せ期間： 令和7年9月5日から令和7年9月16日までの午前9時30分から午後5時まで。（注）
⑧	上記⑦に対する回答期限：令和7年9月26日まで
⑨	競争参加資格がないと認めた者等に対する理由の説明要求期限：令和7年9月16日午後5時まで
⑩	上記⑨に対する回答期限：令和7年9月26日まで
⑪	開札日時：令和7年9月24日 午前10時30分
⑫	施工体制確認のためのヒアリングに関する連絡期限：令和7年9月24日
⑬	施工体制確認のためのヒアリング日時： 令和7年9月25日から令和7年9月29日までの午前9時30分から午後5時まで。（注）
⑭	施工体制確認票の提出期限：令和7年9月25日午後5時まで
⑮	施工体制確認のための追加資料の提出期限：令和7年9月26日午前11時30分まで
⑯	施工体制確認のための追加資料の提出を行わない旨の書面提出期限： 令和7年9月25日午前11時30分まで
⑰	設計等業務報告書の閲覧期間 令和7年6月20日から令和7年7月28日まで

(注) 行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第1条に規定する行政機関の休日を除く。